



# 身近な **笑顔** を守る 地域の **力**

私たちの身近にある子どもたちの笑顔。

この何気ない笑顔を守るために

陰ながら活動をしている人がいます。

イベントを通して、子どもがやりたいことを叶える人。

学校での学びの幅を広げている人。

登下校を陰ながら見守る人。

多世代が集えるような新たなコミュニティを生み出した人。

給食を通して健康を支えている人。

今回の特集では、子どもたちが安全で幸せに暮らせる

環境づくりを行う人たちの熱い想いに迫りました。

日本製鉄釜石シーウェイブスの今シーズン初のホストゲームが開催されます！  
市民一丸となって声援を送りましょう！



**12月28日(土)**

**13時 キックオフ**

**11時 開場**



日本製鉄釜石シーウェイブス

VS

グリーンロケッツ東葛

## チケット情報

( )は当日料金	一般価格	ファンクラブ価格
メインS自由席	3,000円 (3,500円)	2,400円 (2,800円)
自由席	2,000円 (2,500円)	1,600円 (2,000円)
自由席ともチケ割 (大人2枚セット)	3,500円	—
車いす席	1,500円 (2,000円)	1,200円 (1,600円)

小中学生  
**無料**

70歳以上  
身分証明書の  
提示で**無料**



詳細はこちら

## アクセス情報

三陸鉄道などの公共交通機関をご利用願います。車でお越しの場合は、スタジアム付近の駐車場をご利用ください。



## 無料シャトルバス

釜石駅 ⇄ うのスタ

時刻表はこちらから▶



12時頃 | 西側フードコーナー付近



### 桜舞太鼓・鼓舞桜会

釜石を代表する創作太鼓の  
迫力あるパフォーマンス

13時45分頃 | ハーフタイム



### ちあ釜フラッグパフォーマンス

釜石ゆかりのサポートチーム「ちあ釜」  
によるフラッグパフォーマンス

15時頃 | メイングラウンド内



### ラグビーのまち釜石教室

気軽にラグビー体験ができます  
詳しくは、日本製鉄釜石シーウェイブスの  
ホームページをご覧ください。

11時～15時30分



### うのスタ・フードコーナー

約30店舗が大集合！ 飲食しながら  
試合を楽しもう！

問い合わせ 市スポーツ推進課 ☎ 27-5712  
チケットに関する問い合わせ 日本製鉄釜石シーウェイブス ☎ 22-1173



かまっこまつりに  
参加する皆さん

こどもスタッフ



甲子小6年  
鈴木 楓さん 柏館 夕奈さん

かまっこまつりは、違う学校でも仲良く、みんなで協力して一つになることができます。いろいろな人がさまざまなアイデアを持って、共有できるところが楽しいところです。

学生サポーター



釜石中1年  
大井 虹色さん 櫻井 真衣さん

今まで大人や学生サポーターに見守られて、こどもスタッフとして参加していましたが、今年から学生サポーターとして参加しています。みんなの楽しそうな姿を見ると、嬉しいです。

親子で参加



三浦 綾さん 三浦 杏さん

地域とつながり協力して成し遂げることで、子どもたちの自信や達成感に繋がっている姿を見ると、子どもたちの成長やパワーを感じます。私も楽しみになっていて、大人も子どもも楽しめる場です。



かまっこまつり事務局  
岩城 一哉さん

私は平成27年11月から「かまっこまつり」に携わり、子どもたちの「やりたい」と想う気持ちを大事に取り組んできました。学校以外の場所でもやりたいことをやってみるという経験ができるのは貴重だと思いますし、そこには子どもたちだからこそ「かまっこまつり」が一つの居場所になっていると思います。この居場所をどう継

一つの居場所として  
継続させていくために

「継続していくかが課題でもあり、支える大人も大事だと思っています。こどもスタッフとして参加している小学生が、中学生、高校生と成長し、学生サポーターとして参加する姿を見てきて、自分たちがやってきたことは間違っていないんだなと実感できました。小学生の頃の楽しかった経験があるから、中・高校生になっても「かまっこまつり」に関わり続けてくれると思いますし、その思いが地域のためにつながっていけば嬉しいです。保護者から「普段見られない子どもの姿が見れて嬉しかった」という声もあり、一緒に成長しながら楽しく活動しています。子どもたちには、自分で考えて行動できる人になってほしいと思いますし、これからも地域と関わり続けてほしいです。」

地域で子どもの  
「顔が見える関係」を

震災後の子どもたちの居場所づくりを目的に平成25年11月から「かまっこまつり」が始まりました。当時は、子どもたちがのびのび遊べる環境がない中で、子どもたちの声を気にする周囲の心無い言葉を耳にすることもありました。地域で子どもを育むためには、顔の見える環境づくりが必要だと考え、地域とつながり、



かまっこまつり事務局  
山口 未来さん

子どもたちのやりたいことを実現させたおまつりがあればという思いがきっかけでした。最初は、鶴住居地区と栗林地区の2地区で開催していましたが、昨年は釜石市民ホールTETTOで開催して、たくさんの人に参加していただきました。学校を問わず子どもたちが触れ合うようになって、家でも学校でもない一つの居場所になっているように感じます。参加している高校生から「将来は地域に関わる仕事がしたい。『かまっこまつり』で地域の人と関わる場を作ってもらい、たくさんの人と触れ合ってきた経験が自分の基礎になっている」と言われたことがありました。本当に嬉しかったです。これからも子どもたちが成長していく姿を見守っていききたいです。」

子どもたちのやってみたい想いを叶える  
地域との繋がりをつくる

「子どもたちのやってみたい想いを叶える」を合言葉に開催してきた「かまっこまつり」。お店担当の「こどもスタッフ」とサポーターの「学生サポーター」が主体となり、放課後子ども教室に携わる大人たちが影ながらサポートし、かまっこまつりを運営しています。今回は、2月9日(日)の開催に向け、準備を進める皆さんの声と子どもたちのやってみたいを叶える活動に迫ります。



日時 2月9日(日) 12時30分～15時  
場所 釜石市民ホールTETTO  
ホールB・ギャラリー  
内容 香水とキャンドル、スライムづくり体験、ハッピーミッションゲーム、古着屋、くじ引き屋、射的屋など



インスタ



専用通貨「かまっこコイン」

来場者は受付で「かまっこコイン」をもらって買い物を楽しめます。コインを使い切ったら、お店を手伝うと報酬としてコインを得ることができ、楽しく学ぶことができます。





## 多様な経験を子どもたちに 地域と学校をつなぐ橋渡しに

地域学校協働活動は、地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動として、平成29年3月の社会教育法の改正により、法律に位置付けられました。市は、地域と学校をつなぐ役割を果たす「地域コーディネーター」を各学校に配置し、この活動を推進しています。今回は、市内で活躍する2人のコーディネーターにお話を聞いてきました。

魅力的な体験を  
届けるために

釜石小学校  
地域コーディネーター  
寺田 恵美子さん



釜石小では、地域学校協働活動として、わかめの種付け体験などの漁業体験や野菜作りの農業体験、郷土料理作り、味噌作り体験などを行っています。

私が学校と地域を結ぶ活動を始めたのは、平成20年度からです。元々主任児童委員として活動しており、当時の校長先生の教育プログラムと文科省のコンセプトに共感して、その活動なら私にもできるかもと思ひ引き受けました。

地域の皆さんに協力していただくまでは大変なこともありましたが、子どもたちができるだけ多くの職業や地域独自の魅力的な活動に触れ合ってもらえればと考えています。子どもたちには、この地域協働活動を通して、郷土愛を育んでもら

いたいなと考えています。進学や就職で釜石を出てしまう子が多いですが「釜石の魚はおいしかったな」「そういう釜石でこんな体験をしたな」と思い出してもうれしそうです。

そして、いずれは釜石に帰ってきて地元を盛り上げてくれる一つのきっかけになればうれしいです。

私自身、子どもたちと触れ合うことが楽しいので、この活動を続けています。私は盛岡出身なので、子どもたちに混じって体験をしていると誰よりも私が新鮮な気持ちで体験をしているのでは？と思う時もあります(笑)

自ら考え自立し

挑戦できる大人に

小佐野小学校  
地域コーディネーター  
菊池 悦子さん



数年前まで約40年間にわたり、学校の養護教諭として働いていて、退職後も何らかの形で、教育現場のサポートができないかなと思ひ、2年前から地域コーディネーターとして小佐野小で活動を始めました。子どもたちの成長を間近で見れるのが楽しみだし、子どもと関わっていると毎回新鮮なことの連続で、やりがいもあります。

小佐野小では、地域協働活動として図書ボランティアや毛筆・授業支援、校外学習への引率補助などの取り組みを行っています。中でも「小川しし踊り保存会」の皆さんに協力いただいで伝統芸能の活動に力を入れていきます。この活動は、旧小川小との統合時に小川小で行ってきた取り組みを

引き継ぐ形で始まったもので、現在は5・6年生が運動会でこの踊りを披露しています。初めてしし踊りに挑戦する子が多いのですが、子どもたちの中には、この活動をきっかけに保存会に入る子もいて、楽しく伝統芸能に親しんでもらっているのかなと感じます。

活動で意識していることは、学校生活を楽しんでもらうのはもちろん、困難を乗り越える力や協調性など、社会性を身に付け、将来自立した人になってほしいなと思っています。また、挑戦することも大事にしてもらいたいです。

私もこの活動やさまざまな社会貢献を通して、挑戦を続けていきます。



毛筆の授業でも、地域ボランティアの人がサポートとして入り、書き方の指導を行っています。



「小川しし踊り」の学習。地域の伝統芸能を継承する意味合いでも重要なものになっています。



漁業体験では、わかめの種付け体験を通して釜石の主要産業である「漁業」を学びます。



農業体験では、自らの手で育てた作物をバザーにて対面販売の体験をしています。

# 子どもたちの安全・安心 を見守る地域の目

市内では、子どもたちがいつもと変わらぬ日常を送れるよう、陰ながら子どもたちの登下校を見守っている人が多く活動しています。その中でも長年にわたり活動しているのが菅原さんと佐藤さんです。「子どもたちが安全・安心に登下校できるような」という2人の言葉から、子どもたちを優しく見守る温かさが伝わってきます。

子どもたちを守る青い光

釜石市防犯協会 副会長

菅原 武さん



私は青色防犯パトロール（通称・青パト）の活動を始めて約20年になります。青パトは、自動車に青色回転灯を装着して、地域の自主防犯パトロールを行う活動です。きっかけは、平成17年12月に唐丹町で誘拐事件があり、このような事件を二度と起こさないために、地域みんなで子どもたちを見守ろうという思いでした。人通りが少ない道や裏通りなど一人で下校している子どもいるのでパトロールや看板を設置するなど、子どもたちが安全・安心に下校できるように心掛けています。毎月第4金曜日には朝のあいさつ運動に参加した

子どもたちを見守り続けて41年

釜石市交通指導隊 隊長

スクールガード リーダー

佐藤 鉄太郎さん



現在は、釜石市交通指導隊の隊長とスクールガードのリーダーとして、子どもたちが安心して登下校できるように活動しています。交通指導隊の活動は、昭和59年から始めて、今年で41年目になります。長年自宅がある平田を拠点に活動していましたが、数年前から交通指導隊員が街中で不在のため、現在は家を6時に出発し大町の工藤歯科の前で子どもたちが登校する姿を見守っています。最初は横断歩道を渡るときに左右を確認することができない子どもいましたが、最近では交通マナーもすごく良くなったし、みんな顔も覚え

り、夜は駐在所の方と一緒に巡回をしているので、子どもたちともすっかり顔なじみです。

パトロールしていると子どもたちが元気づく挨拶をしてくれます。10円を拾ったとか日常の些細なことでも気付いたら報告してくれるようになりました。

小学生の頃、泣き虫だった女の子が今では3人の母になっていたり、高校生の頃、やんちゃだった男の子もすっかり大人になっていたり。そんな子どもたちの成長を見守ることがやりがいになっています。

これからも子どもたちの成長と地域の安全を見守ってまいります。

てくれ、子どもたちから元気にあいさつしてくれます。

スクールガードは、平成18年にリーダーになりました。震災直後は、不審者が多くなった時期もありました。現在は不審者の目撃情報はあまり多くないですが、子どもたちにもなるべく複数で帰るように呼びかけを行うとともに、私も見守りを続けています。

私が長年こうした活動を続けて来られたのも、家族をはじめ周りで応援してくれる人があってのものです。今後でもできる限り子どもたちの生活を見守っていききたいと思っています。



いつも私たちの安全を守ってくれてありがとうございます。信号の無い横断歩道でなかなか車が止まってくれず困っていた時に、パトロールしている青パトが止まってくれて、安心して横断歩道を渡ることができました。

(左上から) 甲子小2年

山田 光葉さん、村上 希佳さん

(左下から) 中村 莉愛奈さん、畠山 芭月さん、森 奏心さん



スクールガードや防犯隊員の皆さんのおかげで、安心して登下校ができています。あいさつをすると、いつも笑顔で話しかけてくれるのが嬉しいです！これからもよろしく願います。

(左上から) 釜石小3年

矢野 慎士さん、千葉 結月さん、山元 一成さん

(左下から) 2年 櫻庭 えまさん、川村 奏音さん

# 子どもの笑顔がやりがいに 地域で作る子どもの居場所

全国的に広がりを見せる「子ども食堂」。市内では昨年度から取り組みが始まり、これまで小佐野、平田、甲子、鵜住居の4地区で実施され、他の地区でも準備が進められています。いずれも「地域に子どもが安心して集まれる場所を」というコミュニティ作りの視点が入り入れられており、釜石鉱山(株)や阪神低温(株)などの民間企業からも食材提供を受けるなど、取り組みの幅が広がっています。今回は、小佐野地区と平田地区の皆さんにお話を聞いてきました。



平田にここ食堂の皆さん  
前列中央：藤澤 静子 会長

平田地区で「地域住民や子どもたちとの交流の場を作ろう」と令和6年3月に市内で2例目となる子ども食堂「平田にここ食堂(通称・にこ食)」を始めたのは「平田いきいきサークル」の皆さん。  
会長の藤澤静子さんは1回目の開催を「初めは不安を感じるメンバーもいましたが『まず1回やってみよう』と声をかけ実施しました」と振り返ります。  
取り組み後の変化を聞いてみると『「あっ! にこ食のおばちゃんだ」と子どもたちから話しかけられるようになった。やはり子どもたちの笑顔を見ると私たちも元気になる」

来てくれた人も私たちもみんなが楽しめる場所を

「楽しさ」と「安心」  
両方を感じられる場所を



こさのこどもワイワイ食堂  
伊東 恵子 会長 金子 敬子 事務局長

「この取り組みをきっかけに、地域活動が活性化されてきました」と語るのは、こさのこどもワイワイ食堂を運営する小佐野地区民生児童委員協議会の伊東恵子会長と金子敬子事務局長。「子どもが安心して来られるような居場所を」と令和5年7月に市内で初となる子ども食堂を始めました。「メンバーの中に栄養士や調理師もいるし、思い切ったやってみようと思えました。子どもたちの笑顔が身近に見られることで、やりがいにも繋がっています」と伊東さんは振り返ります。  
「活動前は、地域の子どものとあまり接点が無かったのですが、やり始



子どもたちに負けじと地域の皆さんも体を目いっぱい動かします。

「楽しくければ、また来てくれるはず」この想いを合言葉に、にこ食の取り組みはこれからも地域の笑顔とともに続いていきます。  
「楽しければ、また来てくれるはず」とメンバーの熊谷さんがほほ笑みます。  
にこ食のメンバーの皆さんが、企画の段階から最も意識しているのは「楽しくやること」。11月30日の3回目の開催時も、参加者の笑顔が印象的でした。「企画段階では意見がぶつかり合うこともたくさんありますが、来てくれた子どもたちや高齢者の皆さんはもちろん、私たちも楽しくやろうというゴールは共通しています。なので、終わった後はやっぱり良かったという達成感でいっぱいになります」と藤澤さんは笑みを浮かべました。

「活動前は、地域の子どものとあまり接点が無かったのですが、やり始めてからは声を掛けられることが増えました。子どもと関わるスタッフもお互いに顔が見える関係になり、距離が縮まったように感じます」と金子さんもこの取り組みの成果を振り返ります。  
そういった活動が評価され、町内会や個人の方から活動費や食材などの支援を受けることも増えたと伊東さんは言います。「自分たちの活動が受け入れられていると感じてうれしいですし、活動の継続の意味でもありがたいです」  
伊東会長は「子どもには『あそこに行くのが楽しい』、親御さんにも『あそこなら安心して預けられる』と感じてもらえるような居場所をこれからも工夫して作っていききたいです」と今後の展開にも意欲を見せました。



高校生も1回目から参加し、運営に協力。今後は中学生の参加にも期待を込めます。





今回の特集では、地域の立場から  
子どもたちの笑顔を守る人たちの想いをご紹介します。  
市内では、今回紹介した皆さん以外にも誰かのために  
頑張っている方々が多くいらっしゃいます。

一方で、人口減少や少子高齢化などの課題に伴い、  
地域を支えている方が減ってきていることも事実です。

今後も私たちの愛するこのまちが持続的に歩みを進めていくためには  
一人ひとりができることから、やり始めることが  
このまちの未来を照らす大きな力となります。  
あなたも身近なことから一歩を踏み出してみませんか？  
その一歩が、釜石の未来を創ることに繋がると信じて。

【特集】身近な笑顔を守る 地域の力(完)



二本松 誠 さん

夏の暑さで今年は収穫量が減っていますが、これからも子どもたちに  
美味しい「りんご」を食べてもらえるように頑張るので、たくさん食べて、  
遊んで、勉強して元気に過ごしてほしいです。



# 子どもたちの 健康を支える学校給食



給食の感想を聞きました！



佐々木 聖夏 さん 小笠原 輝琉 さん

今日の給食はいつもの給食と比べて最高に美味しかったです。特にみそ汁は、野菜がたっぷり入っていて大好きなので、3杯もおかわりしました。毎日食べたいぐらいです。



小笠原 幸太郎 さん

子どもたちに安心安全で美味しい「ねぎ」を届けるために農薬の使用を最小限に抑えています。  
未来ある子どもたちには、釜石の食材を使った給食で、心も体も大きく成長してほしいです。

「いただきます」鵜住居小学校4年生の教室から、子どもたちの元気な声が響きます。この日の給食は、釜石産の食材を使用した特別な給食。学校給食は、栄養、安全、安心、食育の面から子どもたちを支えています。今回は、給食を支える生産者の2人にお話を聞きました。